就労継続支援A型事業所におけるスコア表(実績I~IV、VI)

		\neg			\neg			$\overline{}$
用貨的を締結していた金で 利用者における基ペ労働時 	4, 615		雇用契約を締結していた 基本利用券数	1 047		利用者の1日の 平均労働時期表	5	
			(1)生	活動				
を計期間(4月~ 第 22年度 (2021	3月 (年度)							
虚活動収入から経 を除いた値	4, 723, 255	四	利用者に変払った管 金幣協	4, 339, 561		収支	383 694	h
等々年度(2022年	強)				_			
連邦首取入から終 社を称いた額	5 758, 125	PB	利用をに支払った費 金年経	4, 989 458		収支	795, 667	ρ
9年度 (2023年 上産活動収入から性 まを除いた額	5, 223, 815	B	利用者に支払った費 金枚級	4, 632, 131		4XX	591 684	
			(W) 4 M Ja					
			(面)多機な	報を力				
中年度 (2023年度) に	おける取組 土共和土	121 <u>586</u> 5	集を力」のも項目におい す	UPARTERCE.	18516	44. 68th		
)条件・資格取得、独定の	- MARKETTANIE	அம்	日本を始員として登月	3 主 入 制 皮	Chin	企動車に在る機能	A VENTER	id en
免許・資格取得、核定			日本を確反として登月			を動器に係る労働 助務に係る労働領		
に関する制度を定めてい						する制度を定めて		5711
]						
Dフレックスタイム制に	#INNA#	/Eviron	大阪外域に 在 るが出る	N. Me	dhan	at de Octobre de 1	E AND AREAS	
フレックスタイム制に係っ			中間動物に係る労働。 中間動物に係る労働。			陸出動制度に係る 陸出動制度に係る		
とめている		定めて				ている	の対象所で	
						•		
の有能体験の時間単位数を			休日寺の取得に置す					
)有給休暇の時間単位取得: E定めている	12年、新國的许多明		多体服等の取得に調す					
E May C C. O	- 14	1600	ている					
EXECUTE		1 2	(1.6					
EROCCIO			(版) 文章					
前年度 (2023年度) に	おける取組(全体表「	(N) 東州力	(別) 支援 由上」の各項目に対象と	力向上 選択とした場合に収集)	A		7 l+ 12 l+ 2 +	
前年度(2023年度)に D研修計算に基づいた外部	おける取組 <u>金体を「</u> 研修会又は内部研修会	(N) 182	(版) 文語 由上,の表現日に取組む 8、学会等又は学会)	カ向上 「成化とした場合に影響) は毎において発表		・ 生物の主体		
前年度 (2023年度) に D研修計額に基づいた外部 D研修計額 を策定してい	おける取組 金体を「 研修会又は内部研修会 る ②	(N) 182	(別) 支援 由上」の各項目に対象と	カ向上 「成化とした場合に影響) は毎において発表	053	約甲集者の復築・資	音の実施している	.tva[
前年度 (2023年度) に D研修計師に基づいた外部 O研修計師を策定してい D外部研修、もしくは内 T 同以上表施している。	おける取組 金体を「 研修会又は内部研修会 る ②	(N) \$182 (W) \$182	(別) 文書 き上・のを項目に取出さ き、子会等又は子会 き、子会等又は子会 可以上会員している は、子会等名 サービン	カ向上 は東とした場合に関係 は事において発表 は等において	の元 派 もしく		音の実施している	TU&
前年度 (2023年度) に D研修計画に基づいた外部 D研修計画を無定してい D計部研修、もしくは内 1 回以上実施している。	おける取組 金体を (研修金叉は内部研修会 る 型 部研修を	(N) 主组力 (N) 主组力 (D) (N) (N) (N) (N) (N) (N) (N) (N) (N) (N	(所) 文章 第十、の章母に取得を 第、学章文は学会 第、学章文は学会 同以上の章 している 5、学章等名 サービス 日 101	カ向上 連邦とした場合に記載 車等において発表 ま等において	の元道 もしく ※先達	的事業者の視察・責 は、他の事業所の復 (的事業者名 日/参加者数	間の実施している 駅・実習を受け入れ 月 日	
前年度 (2023年度) に D研修計画に基づいた外部 D研修計画を発定してい D外部研修、もしくは内 1 回以上実施している。 ※研修名 介理・μ管領域等	おける取組 金体及 「 研修金叉は内部研修会 る が研修を ジ 素所における産物の製状	(W) 東州力 ②研付 可付 。研修 東海	(野) 支援 由上1の参通日に取締ち 多、学会等又は学会 多、学会等又は学会 3以上発表している 、学会等名サービス (日 10) (数等名	カ向上 は数とした場合に影響) 体等において発表 を特において (登理責任者領体 10日	O先達 もしく a.先達 実施 a.他の	的事業者の複数・典 は、他の事業所の数 (的)事業者名 日/参加者数 (事業所名 ウェ	官の実施している 京・実習を受け入れ 月 日 : ルピア羽島	,
前年度 (2023年度) に D研修計画に基づいた外部 D研修計画を強定してい D外部研修、もしくは内 I 図以上変施している。 ※研修名 介度、降音報域を 研修講修 弁銭士 員	おける取組 金体及 「 原酵金叉は内部医酵金 る 」 部研修を ジ 素所における食物の裏状 記部 数一	(W) XH2 (W) XH2 (OW) (OW) (OW) (OW) (OW) (OW) (OW) (OW)	(別) 支援 自上1の名目に政治と 第、学会等又は学会 第、学会等又は学会 可以上分表している 5、学会等名 サービス 日 10 J 総等名	カ向上 は東とした場合に関係 は事において発表 は等において	O先達 もしく a.先達 実施 a.他の	的事業者の視察・責 は、他の事業所の復 (的事業者名 日/参加者数	間の実施している 駅・実習を受け入れ 月 日	,
前年度 (2023年度) に D研修計画に基づいた外部 D研修計画を発定してい D外部研修、もしくは内 1 回以上実施している。 ※研修名 介理・μ管領域等	おける取組 金体及 「 原修金又は内部研修会 る 」 部研修を ジ 素所における産物の製状 記部 第一	(W) XH2 (W) XH2 (OW) (OW) (OW) (OW) (OW) (OW) (OW) (OW)	(野) 支援 由上1の参通日に取締ち 多、学会等又は学会 多、学会等又は学会 3以上発表している 、学会等名サービス (日 10) (数等名	カ向上 は数とした場合に影響) 体等において発表 を特において (登理責任者領体 10日	O先達 もしく a.先達 実施 a.他の	的事業者の複数・典 は、他の事業所の数 (的)事業者名 日/参加者数 (事業所名 ウェ	官の実施している 京・実習を受け入れ 月 日 : ルピア羽島	,
前年度 (2023年度) に D研修計画に基づいた外部 D研修計画を確定してい D外部研修、もしくは内 I 図以上変施している。 ※研修名 介度・降音報域を 研修旗師 弁鎖士 員	おける取組 金体を 「 研修金叉は内部研修会 る 「三 部研修を 」 は 業所における産物の親状 は都 競一 月 10 日 3 人	(W) 182) (W) 182) (W) 183) (W) 183) (W) 183) (W) 183)	(別) 支援 自上1の名目に政治と 第、学会等又は学会 第、学会等又は学会 可以上分表している 5、学会等名 サービス 日 10 J 総等名	カ向上 は数とした場合に影響) 体等において発表 を特において (登理責任者領体 10日	O条用 もしく 水光 実施 一他の 実施	的事業者の複数・典 は、他の事業所の数 (的)事業者名 日/参加者数 (事業所名 ウェ	管の実施している 駅・実理を受け入れ 月 日 :ルピア羽島 2月 27日	2 J
前年度 (2023年度) に D研修計画に基づいた外部 D研修計画を策定してい D外部研修、しくは内 自 図以上実施している。 ※研修名 介度 中音福祉 研修協修 弁朗士 長 資施日・受換者数 8	おける取組 金体及 「 研修金叉は内部研修会 る が研修を ジ 業所における金牌の現状 日都 第一 月 10 日 3 人	(W) 東祖力 ②研付 ○研付 16 ・研修 ・研修 ・研修 ・研修 ・研修 ・研修 ・研修 ・研修 ・研修 ・研修	(野) 支援 島上1の各項目に取扱的 第、学会等又は学会 第、学会等又は学会 可以上発表している 5、学会等名 サービス 日 10 1 被等名 日 10 1	カ向上 山銀ヤ L L (場合に記載) 体等において発表 体等において (登理責任者領体 19日	O発展 もしく 水光 実施 ・他の 実施	的事業者の複数・資 は、他の事業所の複 証的事業者名 日/参加者数 の事業所名 ウェ 日/参加者数	間の実施している 駅・実際を受け入れ 月 日 にルピア羽島 2月 27日	,
前年度 (2023年度) に D研修計画に基づいた外部 D研修計画を無定してい D計研修、もしくは内 1 回以上実施している。 ※研修名 介理、障害結構率 研修調節 弁鎖士 無 実施日・受練者数 8 の際議法大の高減会等へ のではまたの高減会等へ	おける取組 金体表 「 研修金叉は内部研修会 る 「」 部研修を ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	(V) 主组力 (V) 主机 (V)	(野) 支援 自上1の各項目に取組を1 事、学会等又は学会 事、学会等又は学会 可以上発表している 5、学会等名 サービス 日 10 J 大テーマ 最の人事評価制度 最の人事評価制度を開 数人事評価制度を開	お内上 「連択とした場合に配理) 連帯において発表 2 では 2	の名類 もしく ・・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	i的事業者の複数・責 は、他の事業所の複 i的事業者名 日/参加者数 フ事業所名 ウェ ロ/参加者数 アサポーターのE アサポーターを配置 まピアサポーターも	間の実施している 京・実理を受け入れ 月 日 にルピア羽島 2月 27日 と世 ましている	2 /
前年度 (2023年度) に D研修計額に基づいた外部 O研修計額を重定してい OMF を OMF を OMF OMF OMF OMF OMF OMF OMF OMF	おける取組 全体及 「 研修金叉は内部研修会 る 部研修を ジ 業所における意种の最い 技部 数一 月 10 日 3 人 の参加 示会等へ1回以上 以 以 以 は は の の の の の の の の の の の の の	(V) 主组力 (V) 主机 (V	(野) 支援 自上」の各項目に取組名 等、学金等又は学会 等、学金等ス サービス に 学金等名 サービス に 日 10 1 総等名 日 テーマ 最の人事評価制度を 最の人事評価制度を 最の人事評価制度を が、事評価制度を が、事評価制度を のの関係を のの関係を のの対象 を のの対象 ののが のの対象 ののが ののが ののが ののが ののが ののが ののが のの	力向上 通数とした場合に配数 本等において発数 本等において 技習責任者領権 19 日 日	の名詞 もしく 水光対 実施 「他の 実施 のピー の出	1的事業者の視察・責 は、他の事業所の技 出的事業者を 日/参加者数 の事業所名 ウェ 日/参加者数 アサポーターの記 アサポーターの記 タポーターを記載 まピアサポーターに 受講している	間の資施している 駅・実際を受け入れ 月 日 にルピア羽島 2月27日 記載 記載 記載 記載 に (物質者): 794	2 月
前年度 (2023年度) に D研修計画に基づいた外部 D研修計画を策定してい の外部研修、もしくは内 に関以上東施している。 ※研修名 介理 時等福祉年 原施日・受練者数 8 D原施拡大の南班会や周 か加している。 の制度会等名 軟労環境支 主権者名 軟労環境支	おける取組 全体数 (原都会又は内部研修会 る 部研修を ジ 素所における金枠の製化 品部 数一 月 10 日 3 人 の参加 示金等へ1回以上 提事業所運絡会被負責 に選挙業所運絡会被負責	(V) 支担力 (V)	(野) 支援 自上1の身項目に取組を 等、学金等又は学会 等、学金等又は学会 同以上発表している 、学金等名 サービス 日 10 1 世帯名 日 7 一マ 最の人事評価制度を開始 大事評価制度を開始 大事評価制度を開始 大事評価制度を開始 大事評価制度の対象職別 を開始 の対象職別 の対象職別 の対象職別 の対象職別 の対象職別 の対象職別 の対象職別 の対象職別 の対象職別	カ向上 過数とした場合に配置) 準等において発表 本等において (登理責任者領体 19 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	の失調をして、 ・生は、 ・生は、 ・生性を ・生性を ・生性を ・生性を ・生性を ・生性を ・生性を ・生性を	1的事業者の視察・責 は、他の事業所の技 生の事業者を 日/参加者数 日本銀行名 ウェ 日/参加者数 フマポーターを記 表 受験 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	間の実施している 京・実理を受け入れ 月 日 にルピア羽島 2月 27日 と世 ましている	2 月
前年度 (2023年度) に D研修計画に基づいた外部 D研修計画を策定してい 分別研修、もしくは内 回以上実施している。 ※研修名 介理、障害核社を 研修調解 弁護士 前 実施日・受練者数 8 D服務拡大の商談会や配 加加している。 両額を専名 軟労銀数3 日時 11	おける取組 金体及 (原都金叉は内部原格会 る 部研修を ② (京都 (また) も (京本等へ 1 回以上 日本等 京所 道路会教卓到 (京本等 所 選絡会教卓列 (月 4 日	(V) 支援力 ②研引 「根 の では、 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	(契) 支援 京上 の身項目に取組をし 京・学会等又は学会 京・学会等又は学会 京・学会等名 サービス 日	お内上 上上 上上 上上 上上 上上 上上 上上	の失調を もしく が発達した。 で表現での で表現での で表現での である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。	ip 事業者の複数・実 は、他の事業所の複数を はの事業者名 日/参加者数 の事業所名 ウェ 東京所名 ウェ サポーターの記 を は、ビアサポーターの を を は、ビアサポーターの を は、関加 の の の の の の の の の の の の の	間の資施している 駅・実際を受け入れ 月 日 にルピア羽島 2月27日 記載 記載 記載 記載 に (物質者): 794	2 月
前年度 (2023年度) に D 研修計画に基づいた外部 D 研修計画を策定していた。 D 計部研修、もしくは内 1 回以上東施している。 ※研修名 介理	おける取組 金体及 (原都金叉は内部原格会 る 部研修を ② (京都 (また) も (京本等へ 1 回以上 日本等 京所 道路会教卓到 (京本等 所 選絡会教卓列 (月 4 日	(V) 支援力 ②研引 「根 の では、 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	(野) 支援 自上1の身項目に取組を 等、学金等又は学会 等、学金等又は学会 同以上発表している 、学金等名 サービス 日 10 1 世帯名 日 7 一マ 最の人事評価制度を開始 大事評価制度を開始 大事評価制度を開始 大事評価制度を開始 大事評価制度の対象職別 を開始 の対象職別 の対象職別 の対象職別 の対象職別 の対象職別 の対象職別 の対象職別 の対象職別 の対象職別	お内上 上上 上上 上上 上上 上上 上上 上上	の失調を もしく が発達した。 で表現での で表現での で表現での である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。	1的事業者の視察・責 は、他の事業所の技 生の事業者を 日/参加者数 日本銀行名 ウェ 日/参加者数 フマポーターを記 表 受験 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	間の資施している 駅・実際を受け入れ 月 日 にルピア羽島 2月27日 記載 記載 記載 記載 に (物質者): 794	2 月
前年度 (2023年度) に D研修計画に基づいた外部 D研修計画を策定している。 P外部研修、もしくは内 1 回以上実施している。 研修成務 弁別士 身 実施日・受練者数 8 D原路拡大の両額金等へ の関係を等る 就労需収至 主信者名 就労需収至 主信者名 就労需収至 自時 成果物販売 展示	おける取組 金体及 (原都金叉は内部原格会 る 部研修を ② (京都 (また) も (京本等へ 1 回以上 日本等 京所 道路会教卓到 (京本等 所 選絡会教卓列 (月 4 日	(V) 支援力 ②研引 「経済」 「の研究」 「の研究」 「の研究」 「の研究」 「の研究」 「の研究」 「の研究」 「のの研究」 「のののののののののののののののののののののののののののののののののののの	(智) 支援 自上1の身項目に取組名と 事、学会等又は学会 事、学会等又は学会 は上身表している。 、学会等名 サービス 日 10 1 (世等名 1 日 7 一マ 最の人事評価制度 最の人事評価制度を制 等のの人事評価制度を制 等ののののの対象職員 開稿・屏稿を行った。 人事評価制度の加分 とのののの対象職員 開稿・原稿を行った。 人事評価制度の加分 とののののの対象職員 にのののの対象職員 にのののの対象職員 にのののの対象職員 にのののの対象職員 にのののの対象職員 にののののの対象職員 にのののののの対象職員 にのののののののののののののののののののののののののののののののののののの	通報を上上場合に配数) 連帯において発表 連帯において発表 連帯において では	の失調を もしく が発達した。 で表現での で表現での で表現での である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。	ip 事業者の複数・実 は、他の事業所の複数を はの事業者名 日/参加者数 の事業所名 ウェ 東京所名 ウェ サポーターの記 を は、ビアサポーターの を を は、ビアサポーターの を は、関加 の の の の の の の の の の の の の	間の資施している 駅・実際を受け入れ 月 日 にルピア羽島 2月27日 記載 記載 記載 記載 に (物質者): 794	2 J F研修2
前年度(2023年度)に D研修計画に基づいた外部 D研修計画を無定してい P外部研修、もしくは内 I 回以上実施している。 ※研修名 介理、障害核社率 研修調解 弁理士 順 実施日・受練者数 8 D原係は大の商談会等へ D加している。 随随者等名 軟労競技 11 内容 成果物販売 展示	おける取組 金体表 「 研修金叉は内部研修会 る都研修を 型部研修を 型 常所における命件の表状 2部 第一 月 10 日 3 人 の 参加 示金等へ1回以上 上述事業所通路金銭卓両 に提事業所通路金銭卓両 を提集を表現る。	(V) 支援力 ②研付 「財産の対象」 「対象」 「対象」 「対象」 「対象」 「対象」 「対象」 「対象」 「	(野) 支援 自上1の身項目に取組を1 事、学金等又は学会 事、学金等又は学会 可以上党表している。 、学金等名 サービス 日 10 1 10 1	お内上 上上 上上 上上 上上 上上 上上 上上	の失調を もしく が発達した。 で表現での で表現での で表現での である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。	的事業者の視察・責 は、他の事業所の提 はの事業者名 日/参加者名 日/参加者名 日/参加者名 フサポーターの記 まピアサポーターの記 を受けている を関則問 月日 は納納	間の資施している 駅・実際を受け入れ 月 日 にルピア羽島 2月27日 記載 記載 記載 記載 に (物質者): 794	2 J F研修2
前年度(2023年度)に D研修計画に基づいた外部 D研修計画を重定している。 P外部研修、もしくは内 1 図以上実施している。 ※研修名 介理・障害領域等 研修版解 弁理士 育実施日・受機者数 8 変施は大の高速会やの D版版は大の高速会やの D加している。 高額接合等名 軟労税税3 日時 11 内容 成果物販売 展示	おける取組 金体を 「 研修金叉は内部研修会 る 部研修を ジ 業所における産物の現状 部 数一 月 10 日 3 人 の参加 示金等へ1回以上 と 日本業所連絡金岐阜内 は様字業所連絡金岐阜内 を 会	(F) 東祖力 ②研修 1 日	(野) 支援 自上1の会員日に取組名 事、学金等又は学会 事、学金等又は学会 可以上免費している。 大学金等名 サービス (日 10) (10) (カ内上 選択とした場合に配数 連帯において発表を等において (2) (登職責任者領権 19 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	の失調を もしく が発達した。 で表現での で表現で のとこ のとこ を記載する	的事業者の視察・責 は、他の事業所の提 はの事業者名 日/参加者名 日/参加者名 日/参加者名 フサポーターの記 まピアサポーターの記 を受けている を関則問 月日 は納納	間の資施している 駅・実際を受け入れ 月 日 にルピア羽島 2月27日 記載 記載 記載 記載 に (物質者): 794	2 J F研修2
前年度 (2023年度) に D研修計画に基づいた外部 D研修計画を無定してい D研修計画を無定している。 *研修名 介理、障害報酬率 研修調節 弁理士 無 実施日・受練者数 8 実施日・受練者数 8 の販路拡大の高調会等へ D加している。 助議会等名 軟労競談 日時 11 内容 成果物販売 展示	おける取組 金体を 「 研修金叉は内部研修会 る 部研修を ジ 業所における産物の現状 部 数一 月 10 日 3 人 の参加 示金等へ1回以上 と 日本業所連絡金岐阜内 は様字業所連絡金岐阜内 を 会	(F) 東祖力 ②研修 1 日	(野) 支援 自上1の身項目に取組を1 事、学金等又は学会 事、学金等又は学会 可以上党表している。 、学金等名 サービス 日 10 1 10 1	カ内上 選択とした場合に配数 連帯において発表を等において (2) (登職責任者領権 19 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	の失調を もしく が発達した。 で表現での で表現で のとこ のとこ を記載する	的事業者の視察・責 は、他の事業所の提 はの事業者名 日/参加者名 日/参加者名 日/参加者名 フサポーターの記 まピアサポーターの記 を受けている を関則問 月日 は納納	間の資施している 駅・実際を受け入れ 月 日 にルピア羽島 2月27日 記載 記載 記載 記載 に (物質者): 794	2 /
前年度(2023年度)に D研修計画に基づいた外部 D研修計画を重定している。 P外部研修、もしくは内 1 図以上実施している。 ※研修名 介理・障害領域等 研修版解 弁理士 育実施日・受機者数 8 変施は大の高速会やの D版版は大の高速会やの D加している。 高額接合等名 軟労税税3 日時 11 内容 成果物販売 展示	おける取組 金体を 「 研修金叉は内部研修会 る 部研修を ジ 業所における産物の現状 部 数一 月 10 日 3 人 の参加 示金等へ1回以上 と 日本業所連絡金岐阜内 は様字業所連絡金岐阜内 を 会	(V) 支援力 ②研研 (日本) (日本) (日本) (日本) (日本) (日本) (日本) (日本)	(契) 支援 自上1の身項目に取組名と 事、学会等又は学会 事、学会等又は学会 事以上党裁している。 、学会等名 サービス 日 10 1 10 1	カ内上 選択とした場合に配数 連帯において発表を等において (2) (登職責任者領権 19 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	の失調を もしく が発達した。 で表現での で表現で のとこ のとこ を記載する	的事業者の視察・責 は、他の事業所の提 はの事業者名 日/参加者名 日/参加者名 日/参加者名 フサポーターの記 まピアサポーターの記 を受けている を関則問 月日 は納納	間の資施している 駅・実際を受け入れ 月 日 にルピア羽島 2月27日 記載 記載 記載 記載 に (物質者): 794	2 J F研修2
前年度 (2023年度) に D研修計画に基づいた外部 D研修計画を無定してい 分析解析。 もしくは内 1 回以上実施している。 ※研修名 介度 内管核理率 研修網解 弁領士 別 実施日・受験者数 8 D服然は大の両数全等 D加している。 画便者名 飲労税税3 日時 11 内容 成果物販売 展示	おける取組 全体を「 原都会又は内部研修会 る部研修を ② 京原における産物の製状 品部 雑一 月 10 日 3 人 の参加 示会等へ1回以上 日本事業所通路会教卓到 日本事業所通路会教卓到 日本事業所通路会教卓到 日本事業を表現る 日本を表現る 日本を表現を 日本を表現を 日本を 日本を 日本を 日本を 日本を 日本を 日本を 日本	(V) 東祖力 ②研介 1.0 ②研介 1.0 可研修 文字 2.0 可称 2.0 可述 2.0 可	(契) 支援 自上1の身項目に取組名と 事、学会等又は学会 事、学会等又は学会 写以上党裁している。 、学会等名 サービス 日 10 1 10 1	通報を上た場合に配数) 連帯において発表 事等において発表 事等において 「「」」 「「」」 「」 「	の失調を もしく が発達した。 で表現での で表現で のとこ のとこ を記載する	的事業者の視察・責 は、他の事業所の提 はの事業者名 日/参加者名 日/参加者名 日/参加者名 フサポーターの記 まピアサポーターの記 を受けている を関則問 月日 は納納	間の資施している 駅・実際を受け入れ 月 日 にルピア羽島 2月27日 記載 記載 記載 記載 に (物質者): 794	2 月
前年度 (2023年度) に D研修計画に基づいた外部 D研修計画を重定してい D研修計画を重定している。 ※研修名 介理、障害報律 研修資師 弁護士 育実施日・受練者数 8 ②原族地大の南陸会や限 D加している。 開展会等名 就労競税3 日時 11 内容 成果物販売 展示	おける取組 全体を「 原都会又は内部研修会 る部研修を ② 京原における産物の製状 品部 雑一 月 10 日 3 人 の参加 示会等へ1回以上 日本事業所通路会教卓到 日本事業所通路会教卓到 日本事業所通路会教卓到 日本事業を表現る 日本を表現る 日本を表現を 日本を表現を 日本を 日本を 日本を 日本を 日本を 日本を 日本を 日本	(V) 東祖力 ②研介 1.0 ②研介 1.0 可研介 2.0 可研研研研研研研研研研研研研研研研研研研研研研研研研研研研研研研研研研研研	(野) 支援 自上1の身項目に取組名 事、学金等又は学会 事、学金等又は学会 可以上党裁している。 5、学金等名 サービス 1日 (0) 一様等名 日 (2) 一様等名 日 (3) 中価制度 吸入事評価制度を開か 所面制度の対対常と行った 大事評価制度の同知の 大事評価制度の同知の 大事評価制度の同知の 大事評価制度の同知の 大事評価制度の同知の 大事評価制度の同知の 大事評価制度の同知の 大事評価制度の同知の 大事評価制度の同知の ない。 日本語言と は、学会 の、 の、 の、 の、 の、 の、 の、 の、 の、 の、	通報を上た場合に配数) 連帯において発表 事等において発表 事等において 「「」」 「「」」 「」 「	の失調を もしく が発達した。 で表現での で表現で のとこ のとこ を記載する	的事業者の視察・責 は、他の事業所の提 はの事業者名 日/参加者名 日/参加者名 日/参加者名 フサポーターの記 まピアサポーターの記 を受けている を関則問 月日 は納納	間の資施している 駅・実際を受け入れ 月 日 にルピア羽島 2月27日 記載 記載 記載 記載 に (物質者): 794	2 月
前年度 (2023年度) に D研修計画に基づいた外部 D研修計画を重定してい D研修計画を重定している。 ※研修名 介理・障害報律・ 研修調解 弁護士 育 実施日・受練者数 8 の際語述大の商連会や限 D加している。 、関係者 の商談会等へ 動談会等名 就労競税3 日時 にいる。 同談会等名 就労競税3 日時 成果物販売 展示	おける取組 全体を「 原都会又は内部研修会 る部研修を ② 京原における産物の製状 品部 雑一 月 10 日 3 人 の参加 示会等へ1回以上 日本事業所通路会教卓到 日本事業所通路会教卓到 日本事業所通路会教卓到 日本事業を表現る 日本を表現る 日本を表現を 日本を表現を 日本を 日本を 日本を 日本を 日本を 日本を 日本を 日本	(V) 東祖力 ②研介 1.0 ②研介 1.0 可研介 2.0 可研研研研研研研研研研研研研研研研研研研研研研研研研研研研研研研研研研研研	(智) 支援 支援 支援 支援 支援 支援 支援 支援	お内上 上上場合に配置 上 場 を において	の失調を もしく が発達した。 で表現での で表現で のとこ のとこ を記載する	的事業者の視察・責 は、他の事業所の提 はの事業者名 日/参加者名 日/参加者名 日/参加者名 フサポーターの記 まピアサポーターの記 を受けている を関則問 月日 は納納	間の資施している 駅・実際を受け入れ 月 日 にルピア羽島 2月27日 記載 記載 記載 記載 に (物質者): 794	2 月
前年度 (2023年度) に D研修計画に基づいた外部 D研修計画を無定してい 分析部計画、しては内 1 回以上実施している。 ※研修名 介度 内音様世年 研修網解 弁護士 別 実施日・受験者数 8 D服然は大の両数金等へ D服然は大の両数金等へ 動を表する 就労殺殺 10時 11円の野 成果物販売 展示 「中華の事業を表する 11円の野 成果物販売 展示 「中華の事業を表する。 「中華の事業を表する。 「中華の事業を表する。 「中華の事業を表する。 「中華の事業を表する。」 「中華の事業を表する。ままる。 「中華のの事業を表する。」 「中華の事業を表する。」 「中華の事業を表する。」 「中華の事業を表する。」 「中華の事業を表する。」 「中	おける取組 全体を (原都全文は内部原格会 る部研修を ② 家原における産物の表状 2部 鉄ー 月 10 日 3 人 の 参加 示会等 1 回以上 日本事業所通路会教章員 日本事業所通路会教章員 日本事業所通路会教章員 日本事業所通路会教章員 日本事業所通路会教章員 日本事業所通路会教章員	(以) 支援力 (の) 支援力 (の) 支援力 (の) 支援力 (の)	(野) 支援 自上1の身項目に取組名 事、学金等又は学会 事、学金等又は学会 可以上党裁している。 5、学金等名 サービス 1日 (0) 一様等名 日 (2) 一様等名 日 (3) 中価制度 吸入事評価制度を開か 所面制度の対対常と行った 大事評価制度の同知の 大事評価制度の同知の 大事評価制度の同知の 大事評価制度の同知の 大事評価制度の同知の 大事評価制度の同知の 大事評価制度の同知の 大事評価制度の同知の 大事評価制度の同知の ない。 日本語言と は、学会 の、 の、 の、 の、 の、 の、 の、 の、 の、 の、	お内上 上上場合に配置 上 場 を において	の失調を もしく が発達した。 で表現での で表現で のとこ のとこ を記載する	的事業者の視察・責 は、他の事業所の提 はの事業者名 日/参加者名 日/参加者名 日/参加者名 フサポーターの記 まピアサポーターの記 を受けている を関則問 月日 は納納	間の資施している 駅・実際を受け入れ 月 日 にルピア羽島 2月27日 記載 記載 記載 記載 に (物質者): 794	2 月
前年度 (2023年度) に D研修計画に基づいた外部 D研修計画を策定してい の外部研修、もしくは内 回以上実施している。	おける取組 全体を (原都全文は内部原格会 る部研修を ② 家原における産物の表状 2部 鉄ー 月 10 日 3 人 の 参加 示会等 1 回以上 日本事業所通路会教章員 日本事業所通路会教章員 日本事業所通路会教章員 日本事業所通路会教章員 日本事業所通路会教章員 日本事業所通路会教章員	(以) 支援力 (の) 支援力 (の) 支援力 (の) 支援力 (の)	(智) 支援 支援 支援 支援 支援 支援 支援 支援	お内上 上上場合に配置 上 場 を において	の失調を もしく が発達した。 で表現での で表現で のとこ のとこ を記載する	的事業者の視察・責 は、他の事業所の提 はの事業者名 日/参加者名 日/参加者名 日/参加者名 フサポーターの記 まピアサポーターの記 を受けている を関則問 月日 は納納	間の資施している 駅・実際を受け入れ 月 日 にルピア羽島 2月27日 記載 記載 記載 記載 に (物質者): 794	2 月